

特集 地域社会の経済発展

地域を育てる、 子どもへの支援

経済発展に欠かせない
未来の人材



経済の発展なくして、豊かなコミュニティの維持は困難です。しかし、真に持続可能な発展とは、単なる経済指標の向上を指すのでしょうか。本特集では、「子どもと地域社会」という視点から経済発展を考えます。未来を担う子どもたちが、経済的背景にかかわらず健やかに育つ環境こそが、地域経済の基盤となります。困難に直面する家庭を孤立させず、地域全体の力で支える仕組みを構築すること。それが、経済発展への一つのアプローチではないでしょうか。

写真提供：東京イマジンジョイナスRC

子どもたちの現実と未来

地域で暮らし、学び、働く。次世代を担う人が育たなければ、地域の持続的な発展は望めません。少子化が進む日本では、今や一人一人の子どもの可能性こそが、地域にとって最も貴重な力となっています。しかし、その芽は今、経済的な困難を理由に摘まれようとしています。データを通じて、日本の地域社会が抱える「子どもの貧困」という現実を見てみましょう。この数字が示すのは、私たちにとって身近な課題です。

ひとり親世帯の
子どもの貧困率

44.7%

2人に1人

子どもの貧困率
(17歳以下の子ども)

11%

子どもの9人に
1人

年間所得が
*138万円以下の人

15%

*その国の一般的な生活水準と比べて困窮している状態を「相対的貧困」といい、2024年の相対的貧困の基準となる金額が年間138万円。これを下回る所得で暮らす人の割合を「相対的貧困率」といいます。

子どものいる
世帯で、食料を
買えなかった
経験がある割合

11.3%

子どものいる
世帯で、必要な衣服
が買えなかった経験
のある割合

16.3%

6人に1人

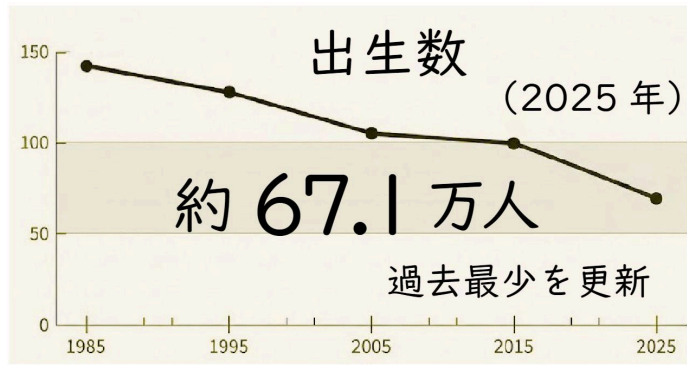


夏休み中に
「子どもの体重が
減った」

22%



*夏休み期間中、子どもの体調や様子に気になるところがあった家庭のうち



2026 年 4 月 1 日現在

15 歳未満人口 1,329 万人

45 年連続減少

総人口の 10.8%
(1980 年は 23.5%)



困窮子育て家庭の苦しい夏休みの声

- ・数万円しかない貯金でしたが、長い夏休みの食費で全て使い果たしました。この先不安しかありません。
- ・口座が底をついて支援の食料で食いつなぐしかなかった。
- ・夏休みは毎年同じで旅行やレジャーなど全くできずに終わりました。必死に月 5 日しか休まず仕事をしましたが 4 人家族で 19 万の給料で暮らしているため毎月赤字でこれ以上は生活費がなく破綻が目の前でひとり頭を痛めています。養育費も支払われず死のうかと考えてしまいますが子どもたちをおいていけません。これ以上生きていけません。
- ・今年の夏休みは特に親子で体重が激減しました。熱中症で、辛かった日も多く、学校が始まって、子どもは大喜びでした。夏休みは本当に地獄です。なくなってほしいです。子どもも夏休みは大嫌いだと言っています。
- ・テレビやラジオでは「猛暑なので命のためにエアコンを使ってください」と何度も聞きました。命のための電気代と命のための食費のどっちが大事なのか考えた夏でした。公共交通機関も発達していない地方では、友達と出かけるのも親の送迎が必要です。送迎すると、収入が減る。公共交通機関を使っても、運賃が高いから渡せない。必然的に、子どもは友達と出かけることがなくてさみしい夏休みにさせてしまいました。



認定 NPO 法人キッズドア「2025 夏休み後アンケート」より、一部抜粋

出典：厚生労働省「2025（令和 7）年国民生活基礎調査の概況」「令和 7（2025）年人口動態統計月報年計（概数）の概況」、内閣府政策統括官（政策調整担当）「令和 3 年 12 月子供の生活状況調査の分析」、総務省「国勢調査」及び「人口推計」、認定 NPO 法人キッズドア 2025 夏休み後アンケート」

一人の「できること」から始まる、地域支援の輪

お福分け会のススメ

東京イマジンジョイナスRC会長 守田 聖美

「子ども食堂がない地域で、フードパントリーを開催してほしい」。この一言が、私たちの活動の始まりでした。フードパントリーは、食料や生活用品を必要としている人に直接届ける活動です。当時、東京都大田区の子どもの食堂に物資を届けていたロータリアン2人が、同区から「ロータリーで何かできないだろうか」と相談を受けたことがきっかけです。彼らはフードパントリーの活動を中心にしたいと、当クラブを創立しました（『友』2026年8月号横組みP8参照）。

フードパントリー「お福分け会」

私たちのフードパントリーは、誰かから頂いたものを必要としている誰かへ「福」をお分けするという思いを込め、「お福分け会」と称しています。届けるのは、物資だけではなく、「支援を受けに来た」と感じるのではなく、「今日は何があるかな」と楽しみに来てもらえる場にしたい。そんな思いで活動しています。

「大田区でできたことを中央区でも」と考え、中央区社会福祉協議会や福祉課と協議を重ね、2024年5月には中央区役所でもお福分け会を始めました。現在は2カ月に1度開催。中央区福祉課が選定した教育支援世帯、生活保護世帯、低所得の子育て世帯など約850世帯に年2回、「お福分け会」を案内しています。申し込みが殺到して人数制限を設けることもあります。毎回約100～120世帯を支援しています。「必要としている人

は、確かにいる」。大田区で感じたことを、中央区でも実感しています。

お福分け会当日は20～30人ほどのロータリー会員らが集合し、届いた物資を並べ、準備をします。配布するのはお米、野菜、インスタントラーメン、菓子など、毎回20品目以上。特に喜ばれるのがお米と生理用ナプキンです。また、くじ引きや輪投げ、夏にはヨーヨー釣りなどの縁日コーナーも用意します。音楽を流し、「こんにちは、今日は白菜ですよ」と笑顔で声をかけ、子どもたちに手を振る。「支援の場」という雰囲気にならないように明るい場づくりに徹します。くじ引きで5kgのお米が当たると、会場から大きな拍手が起こります。

お米を抱えて、泣いたお母さん

ある日、3人の息子さんを連れのお母さんが、終了間際に来ました。くじ引きは残念ながら「外れ」。ちょうどお米の価格が上がっていた時期でした。そこで、会員の一人が「もう最後だから」とお米5kgを渡しました。すると、お母さんはお米を抱えたまま泣き出しました。周りにいた会員も、思わずもらい泣きしました。その時、改めて思いました。私たちが届けているのは、お米や野菜だけではない。「あなたを応援しています」という気持ちも、一緒に届けているのだ、と。子どもたちの成長も見ることができ、私たちの大きな喜びとなっています。お福分け会は、支援する側も元気をもらえるのです。





物資調達で得られたモノ、つながり

さて、この配布物資はどこから調達するのか。中央区からは生理用ナプキンや防災備蓄品の入れ替え時の物資を提供してもらえるようになりました。障害者雇用に取り組む農業生産法人からは、形が不ぞろいで販売できない農産物が届くようになりました。配布物資を集めていると知り、地区補助金を活用して物資調達に協力してくれるクラブもあります。まだ食べられる食品や農産物がある一方、支援に必要な物資は不足し、購入して補うこともあります。「提供したい側」と「必要としている側」を、もっとスムーズにつなげられないか。活動を続ける上で見えてきた課題です。

こうしたつながりから、新しい縁も生まれています。前述の物資調達に協力してくれた農業生産法人の代表、川名元治さんは、この活動を通じてロータリーを知り、入会しました。また、東京日本橋東RCをはじめ、近隣のクラブやローターアクターが地区を超え、興味を持ち、参加しています。友人や家族、会社の同僚を連れてくる人もいます。

「何をしたらいいのか分からない」という人には、「一緒にやりませんか？」と声をかけます。物資を並べる、受付をする、子どもたちと遊ぶ。それぞれができることをやる。一緒に活動することが、より仲間を深く知るきっかけにもなります。

必要なのは「つなぐ仕組み」

活動をさらに広げるには、これまで培った経験やノウハウを他のクラブへ広げる仕組みが必要です。会場をどう探すのか、行政とどう連携するのか、対象者をどう決めるのか、物資をどう集め、当日の運営には何人必要なのか。これまでマンパワーに頼ってきた経験を、チーム

として共有できる形にしたいと考えています。

私たちも、最初から何もかもを分かっていたわけではありません。「困っている人がいる。何かできないだろうか」。そこから始まりました。一つのクラブで全てを背負う必要はありません。もし「自分たちの地域でも何かできるのでは」と思ったら、まずは地元の社会福祉協議会や行政に相談してみてください。そして、仲間を声をかけてください。「一緒にやりませんか？」その一言から、始まることがあります。一つのクラブでは難しいことも、つながればできます。一つのクラブだけでは足りない物資も、つながれば届けられます。

お福分けとは、物を分けることだけではなく、人の思いも、経験も、力も、次の誰かへ分けていくこと。私たちの夢は、情報を交換し、物資を融通し、経験を伝え、必要なときには人も出し合える「支援の輪」を全国につくることです。次は、皆さんの地域で。私たちと一緒に、「お福分け」を始めてみませんか。(第2750地区 東京都)

東京イマジンジョイナスRC Instagram →

東京イマジンジョイナスRCお問い合わせ先：
imagine.joinus@gmail.com



